

【楽器に関する意識・実態調査 2025】

シニア女性の楽器の経験率は74.2%。4人に3人が経験あり

今後、挑戦してみたい楽器は「ウクレレ」や「オカリナ」

販売部数 No.1 (※1) 雑誌「ハルメク」などのマーケティングやリサーチのコンサルティングを通じて、50代以上のインサイトを日々探求する、ハルメク 生きかた上手研究所は、50～79歳の全国のハルトモ（ハルメクのモニター組織）を対象に「楽器に関する意識・実態調査」をWEBアンケートにて実施しました。

(※1) 日本ABC協会発行社レポート(2024年7月～12月)

調査結果のポイント

- 何らかの楽器を経験したことがある人は74.2%。「ピアノ・オルガン・エレクトーン・アコーディオンなどの鍵盤楽器」が最も多く、「ギター、ベースなどの弦楽器」「ハーモニカ」がそれに続く
- 未経験だが挑戦してみたい楽器のトップ3は「ウクレレ」「バイオリン、チェロ、コントラバス、ハープなどの弦楽器」「琴、尺八、三味線、和太鼓などの和楽器」。50代は和楽器・打楽器、70代はクラシックの弦楽器、オカリナへの挑戦意欲が高い

【調査背景】

ハルメク 生きかた上手研究所は、シニアのインサイトについて調査・分析を行っています。近年インタビューなどで、楽器を嗜む女性の話をよく聞きます。今回は、50～79歳のハルメク世代の女性を対象に、楽器に関する意識と実態を調査しました。

【調査概要】

調査方法：WEBアンケート

調査対象・有効回答者数：50～79歳の全国のハルトモ（ハルメクのモニター組織）の女性・562名

調査実施日：2025年7月24日（木）～7月28日（月）

調査主体：株式会社ハルメク・エイジマーケティング ハルメク 生きかた上手研究所

※ 調査結果のパーセンテージは、小数点以下第2位を四捨五入したため、総数と内訳の合計が一致しないことがあります。

※ 本リリースの内容を掲載いただく際は、出典として「ハルメク 生きかた上手研究所調べ」と明記をお願いいたします。

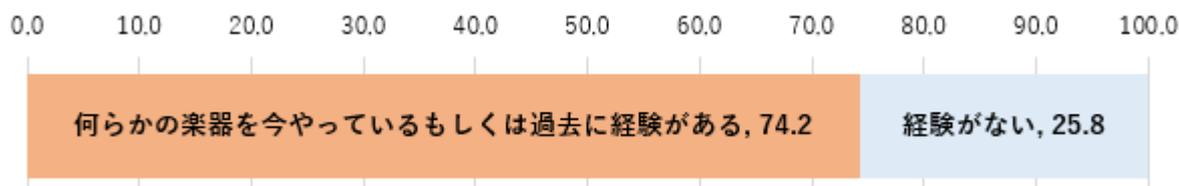
※ 調査主体の「ハルメク 生きかた上手研究所」所長への取材、コメント提供も可能です。

何らかの楽器を経験したことがある人は74.2%。

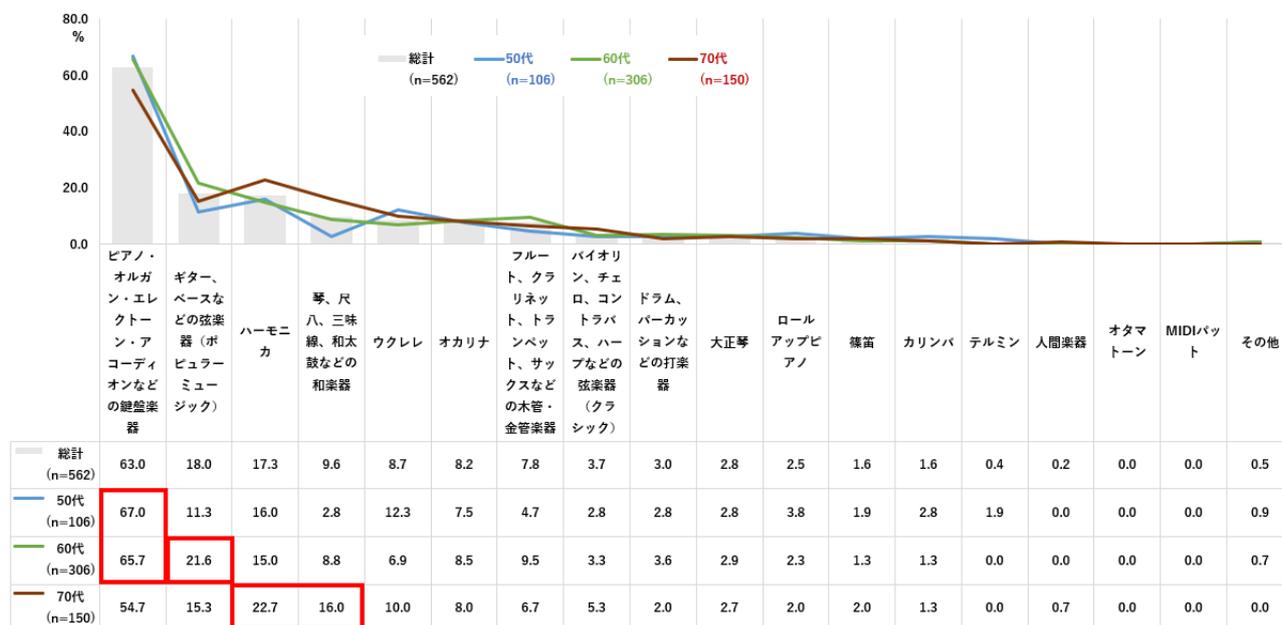
「ピアノ・オルガン・エレクトーン・アコーディオンなどの鍵盤楽器」が最も多く、
「ギター、ベースなどの弦楽器」「ハーモニカ」がそれに続く

- ・ 全体の74.2%の人が、何らかの楽器を経験している。
- ・ 「ピアノ・オルガン・エレクトーン・アコーディオンなどの鍵盤楽器」の経験者は、63.0%と群を抜いて高く、中でも50代・60代の経験率が高い。次いで「ギター、ベースなどの弦楽器」が高く、特に60代の経験率が高い。
- ・ 一方、「ハーモニカ」「琴、尺八、三味線、和太鼓などの和楽器」は、70代の経験率が高い。
- ・ 「ピアノ・オルガン・エレクトーン・アコーディオンなどの鍵盤楽器」の経験率は高いが、その分、若い頃の苦い思い出を持つ人も存在する。

■何らかの楽器の経験 (n=562)



■楽器の種類別経験・年齢別 (n=562)



■鍵盤楽器に関する苦い思い出 (自由回答抜粋)

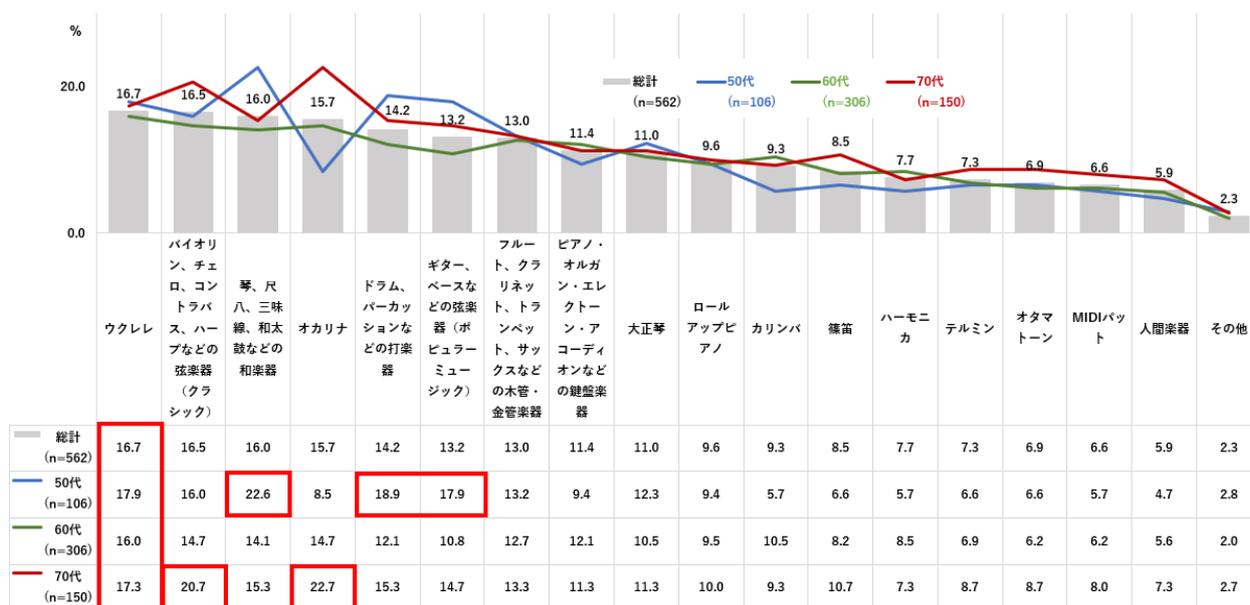
子どもの頃ピアノの練習が苦痛でした。(66歳)
子どもの頃泣きながらピアノを習わされ、嫌で仕方なかった。(66歳)
嫌々ピアノを習っていた記憶が…。(70歳)
3才から始めさせられたピアノは、先生が厳しすぎて苦痛でしかなかった。稽古事は全て母の望むものしか、させてもらえなかった記憶だけ。(71歳)

**未経験だが挑戦してみたい楽器のトップ3は「ウクレレ」
「バイオリン、チェロ、コントラバス、ハープなどの弦楽器」
「琴、尺八、三味線、和太鼓などの和楽器」**

50代は和・打・弦楽器、70代はクラシックの弦楽器やオカリナへの挑戦意欲が高い

- ・ 総計でのトップ3は「ウクレレ」「バイオリン、チェロ、コントラバス、ハープなどの弦楽器」「琴、尺八、三味線、和太鼓などの和楽器」。差はほとんどなく、いずれもおおよそ16%の人が「未経験だが挑戦してみたい」と回答。4位の「オカリナ」も15.7%と僅差である。
- ・ 「ウクレレ」は、どの年代も「未経験だが挑戦してみたい」と回答した人の割合が高い。人気の理由は「フラダンスとの兼ね合い」と「小さくて気軽に始められる」こと。
- ・ 50代から高い支持を集めたのは「琴、尺八、三味線、和太鼓などの和楽器」「ドラム、パーカッションなどの打楽器」「ギター、ベースなどの弦楽器」。また、70代は「バイオリン、チェロ、コントラバス、ハープなどの弦楽器」「オカリナ」の人气が特に高く、両方20%を超えている。

■未経験だが挑戦してみたい楽器 (n=562)



■未経験だが挑戦してみたい楽器 変わり種 (自由回答抜粋)

- パリージョ (59歳)
- 二胡 (62歳)
- 口笛 (67歳)
- お鍋など身近なもので奏でる (69歳)

■どの年代からも人気のある「ウクレレ」に挑戦してみたい理由 (自由回答抜粋)

- 何かやりたいと思い、ウクレレを選んだ。持ち歩けるし、私のようにリズム感なくても、音痴でも、なんとかなっている。(60歳)
- コードが難しく、ギターは学生の頃やめてしまった。ウクレレなら小さいので気軽に始められそう(62歳)
- もともとフラダンスを習っていて、その延長線上に同じ仲間プロのウクレレ奏者の方に習い始めて早1年、ハワイアンミュージックが好きなので、フラ同様もっと上達したい。(69歳)

■70代がオカリナに挑戦したい理由（自由回答抜粋）

オカリナの音色は心がとても穏やかな優しい気持ちになり、大好きです。（71歳）
オカリナを習い、憧れの「コンドルは飛んで行く」が演奏出来た時は嬉しかった。4年近くかかりました。（72歳）

■楽器にこだわらずやってみたい音楽活動（自由回答抜粋）

ストリートピアノ（63歳、70歳、72歳）
ボイストレーニングを習う（62歳、64歳、66歳、68歳、75歳）
「第九」を歌う（66歳、71歳）
ワールドミュージックを楽しむ（ゴスペル、インドミュージック、ブラジルミュージックなど）（59歳、61歳、70歳、74歳）

専門家の見解

ハルメク 生きかた上手研究所 所長 梅津 順江（うめづ ゆきえ）

2016年3月から現職。年間約900人のシニアへの取材やワークショップを通じて、誌面づくりや商品開発、広告制作に役立っている。時代や世代も捉えて、半歩先の未来を予測・創造している。著書に『消費の主役は60代 シニア市場最前線』（同文館出版）などがある。



ウクレレとフラダンスにみる シニア世代の音楽体験の広がり

50～79歳女性の4人に3人が楽器経験者で、「ピアノ・オルガンなど鍵盤楽器」の経験率は6割を超えていました。この高さには驚かされますが、自由回答を見ると「毎日の練習が苦痛だった」「母の期待が重かった」など、必ずしも良い思い出ばかりではありません。当時の教育熱心な親の影響で、音楽を楽しむより“義務”として向き合った人が少なくなかったことが浮かび上がりました。

一方で、未経験ながら挑戦したい楽器として最も人気を集めたのは「ウクレレ」です。軽やかさや音色の涼しさに加え、「フラダンスを習っているから」「ハワイ旅行の思い出と結びつく」といった背景が強調され、ダンス体験やハワイ文化との関係性が人気を支えていました。世代別では70代が特徴的で、クラシックの弦楽器やオカリナへの関心が高く、「通販で教本付きセットを買った」というコメントもあり、楽器と教材を組み合わせた“パッケージ学習”が挑戦意欲を後押ししている様子も伺えます。

さらに、「ストリートピアノ」「ゴスペル」「インドミュージックで踊りたい」「『第九』を歌ってみたい」など多彩なコメントも寄せられました。楽器に限らず、歌や踊りを含めた音楽体験への欲求が広がっているというわけです。

企業視点では「楽器×踊り」「歌×楽器」といった体験型の掛け合わせや、初心者向けの「教材+楽器セット販売」に新しい市場の芽が見えます。楽器は単体で完結するものではなく、旅行や文化体験、仲間との活動と結びつくことで新しい魅力を生み出す。そんな広がりこそが、50代以上女性の心を動かす存在になっていくことなのでしょう。

■販売部数 No.1！ 50代からの生きかた・暮らしかた応援雑誌「ハルメク」

50代からの女性が前向きに明るく生きるための価値ある情報をお届けしています。健康・料理・おしゃれ・お金・著名人のインタビューなど、幅広い情報が満載です。

また、雑誌「ハルメク」の定期購読者には、本誌とともに提供するカタログと、オンラインでの通信販売を行っています。販売している商材は、ファッション・インナー・コスメ・美容・健康など多岐にわたり、独自のシンクタンクである「ハルメク 生きかた上手研究所」を通じて利用者の声を徹底的に調査、反映した商品開発で、多くの女性から支持を得ています。

■ハルメク 生きかた上手研究所のシニアリサーチデータは、[「ハルメク シニアマーケティング LAB」](#)で掲載しています。

「ハルメク シニアマーケティング LAB」は、ハルメク世代（シニア）を顧客とする企業にとって有益な情報をお届けしている情報サイトです。ハルメクグループが提供する定期購読誌や通販等を通じて得たマーケティングデータや記事、シンクタンク「ハルメク 生きかた上手研究所」の調査レポートなど豊富な情報が満載です。